



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた
「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを
2教区（東京は支区）ずつ紹介します。
全国の教区・教会・伝道所を覚えて
祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

日本基督教団伝道推進 基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」
振替口座 00140-7-293436

大阪教区

大阪教区には11の地区があります。今回、覚えてお祈りいただきたいのは奈良地区です。*大阪教区奈良地区は、奈良県内の12教会・伝道所からなります。

奈良地区は古くから「奈良県伝道会」を組織し、伝道・宣教活動に取り組んできました。奈良は古都のイメージどおり、伝道の困難な地です。しかしこの地にあるからこそ、旧教派、規模の違いといった垣根を超え、連帯してひとつとなり、伝道・宣教を推進していこうと奈良県伝道会が作られました。

このために多くの宣教師の働きがありました。その中心となったのは、1960年代に奈良地区担当伝道宣教師であった米国人宣教師トラクセル氏です。各教会を巡り、バイブルクラスや映画伝道をして、今の「奈良県伝道会」の基礎を築きました。

現在は各教会の信徒と、委員長・書記・会計の教師で常任委員会を構成しています。ちなみに現在の奈良県伝道会委員長は、大和郡山教会の宮川経宣（のりのぶ）牧師です。年に5回開かれる委員会では、各教会・伝道所の状況を分かち合うほか、信徒修養会、各部

（教師部・社会部・教育青年部・婦人部）の活動について協議します。

大阪教区の伝道補助金と、各教会からの分担金をもとに活動していますが、このコロナ禍のために、分担金が出せない教会・伝道所が増えました。現状に合わせた新分担金案を考案、実施しようとしています。

ひとつとなる、つながる、そして祈り合う奈良県伝道会になっていくことが今後の課題だと考えています。どうか、奈良県伝道会の各教会・伝道所のためにお祈りください。
（大阪教区総会議長 有澤慎一）



2017年、奈良地区婦人部秋の研修会で

兵庫教区

「抑圧が激しくなれば人は叫びをあげ権力者の腕にひしがれて、助けを求める。しかし、だれも言わない『どこにいますのか、わたしの造り主なる神 夜、歌を与えらる方 地の獣によって教え 空の鳥によって知恵を授ける方は』と」（ヨブ記35・9〜11）

兵庫教区は1県で成る教区です。兵庫県は県民性に乏しく、県人会も僅少と言われる。県の中でも歴史的な背景に違いがあり、地域性も教会観も個性的で多様です。その多様性を生かせるよう祈っています。



兵庫教区事務所、被災者生活支援・長田センターの入り口、兵庫教区クリスチャンセンター

2018年5月、兵庫教区は北海教区と宣教協約を結びました。また2004年には、日本基督教団が宣教協約を結んでいる台湾基督長老教会の高雄中会と宣教協約を結びました。以来、喜び、楽しみを分かち合い、災害発生時などは痛み、悲しみを共にしてきました。今はどちらとも対面での交わりの停止を余儀なくされています。

沖縄教区総会への傍聴派遣もままなりません。1995年の兵庫県南部大地震を契機に設立された「被災者生活支援・長田センター」は、これまではいわば密を重視した活動でしたが、できることを工夫して行っています。

このような中、今年度書面開催した教区総会にて、検討を重ねてきた互助のひとつ「謝儀保障制度の運用方法の指針の改訂」について、新たな歩みを始めることになりました。

戦争、大水、大雪、大嵐、大地震などの「夜」にあっても、先達は歌を与え知恵を授けたもう造り主を礼拝してきました。「夜」の向こうへ、皆共に導かれることを願う兵庫教区の連帯と互助の未来についてお祈りください。

（兵庫教区総会議長 古澤啓太）

*奈良地区の教会については、本誌7月号「日毎の糧」をご参照ください

祈りの課題

兵庫教区

- 教区に連なるすべての教会・伝道所と、そこに連なる信徒・教師が共に宣教を担えるように。
- 教区内外の連帯の未来のために。

大阪教区

- ひとつとなる、つながる、そして祈り合う「奈良県伝道会」となるために。
- 奈良地区12教会・伝道所の伝道・宣教推進のために。

郵便振替 00910-1-27872
「日本基督教団大阪教区」

郵便振替 記号14130 番号27183711
「日本基督教団大阪教区事務所」